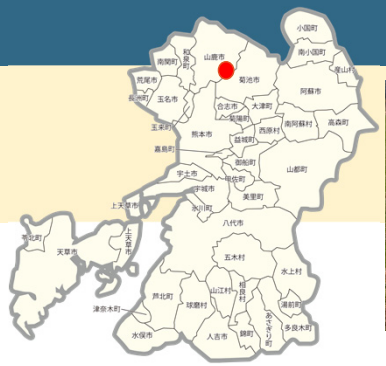
上久井原地区（和水町）

より効率的で稼げる農業経営の実現を目指す



ビジョンの概要

地区の課題

・農業後継者不足と高齢化による離農者の増加
・農地や農村環境の維持・保全ができなくなる
・担い手の確保が必要だが、担い手になる若者が不在
・水稲主体の経営で、農業所得の増加が望めない

ビジョン

地区の目指す姿

（１）営農組織を設立し、大型機化を導入
①農地の集約を図り、営農組合での稲の受託栽培を拡大する。
②大型機械の導入と共同利用を行う。
③担い手確保のため、農大生の研修、都市部からの農業体験等。

（２）暗渠排水等の整備
①老朽化、破損した暗渠排水路の更新を行う。

（3）新規作物導入、減農薬・減肥料栽培
①新規作物としてアスパラガス等の試作導入。
②減農薬・減化学肥料栽培で付加価値を付ける。
③エゴマ、芽キャベツなどを導入。

（4）栗の優良品種への更新と農業体験型の観光農園創設
①栗の優良品種への更新を行う。
②直売所を設け、観光農園を創設する。

（5）地元企業と連携し加工品開発
①栗の渋皮煮を加工してもらう。
②エゴマを絞ってもらう。

成果目標

・エゴマ、芽キャベツ、しょうが、みょうがを各5ａ増やす。
・特別栽培米を作付けする。
・栗の優良品種への更新を行う。

ビジョン策定のプロセス

農地や農村環境の維持・保全ができなくなるのではという危機感

仮説の検証

ハウスを建設して新規作物のアスパラガスを導入するなど「稼げる農業を目指す」ことで一致した。先進地視察を通し、アスパラガスを新規栽培作物に決定。栗についても視察を行い、ベストな品種等を模索。

基本的な考え方の形成

高収益の新規作物の導入、米の特別栽培米の作付、栗の優良品種への更新を行い、観光農園などを創設して「稼げる農業」を目指すことで地区が一致できた。一方で、用排水路の補修を希望する組合員が多く、ビジョンへの期待感が高まった。

先進地視察が合意形成やスムーズなビジョン策定に

基本方針は、総会で全組合員と決定。新規作物の導入についても先進地視察により、合意が得られた。

具体的取り組み

（1）営農組織を設立し、大型農機を導入

●農地の集約を図り、営農組合での稲の受託栽培を拡大する
　→農業ビジョン策定後、受託面積は11haから11.6haに増加
●大型農機の導入と共同利用を行う　→予算が不足し導入は見合わせ
●鳥獣被害対策として電気柵を購入　→営農組合で2aに導入

（2）暗渠排水路の整備

●老朽化、破損した暗渠排水路の更新を行う
　→更新が完了し作業効率が向上、堰も整備し調整力向上

（3）新規作物導入、減農薬・減化学肥料栽培

●新規作物としてアスパラガス等の試作導入
　→ハウス建設を断念、アスパラガス導入も見送り。
　　新作物を模索中
●減農薬・減化学肥料で高付加価値を付ける
　→特別栽培米「くまさんの輝き」栽培は難しく、
　　れんげ米栽培へ
●新規の露地野菜として芽キャベツ、エゴマなどを導入
　→試験的に栽培、芽キャベツは畑を変更して再挑戦

（4）栗の優良品種への更新と農業体験型の観光農園創設

●栗の優良品種への更新を行う　→先進地視察を実施、未着手
●農業体験型の観光農園創設　→令和4年度に着手を計画

（5）地元企業と連携し加工品開発

●くりの渋皮煮を加工してもらう
　→未着手、栗の収量増加後に取り組む予定
●エゴマを絞ってもらう
　→未着手、エゴマ栽培が順調にいけば取り組む予定
●工業団地に近い立地を活かし、特別栽培米の直売場を新設し、
　消費者への直接販売を目指す
　→予算内での直売所開設を検討中

成果

成果目標

・老朽化した用排水路の整備
・新規収益作物のエゴマ、
　芽キャベツを試験栽培
・減農薬、減化学肥料の特別栽培米

結 果

・水田整備で組合員が積極的になった
・芽キャベツ２a栽培、
**　エゴマも本格栽培へ**
・れんげ米の特別栽培米で品質、
**　収量アップ**

今後に向けて

見送られたハウス建設と観光農園創設の再検討